

## 庁舎再編に係る資料

### 1. これまでの経緯

平成27年度	既存4庁舎のいずれかを増築する既存庁舎活用案と新庁舎整備案の5パターンについてライフサイクルコスト等を算出
平成28年6月14日 議員懇談会	以降8月まで4回、5パターンを検討材料として議論を実施
平成28年9月12日	市自治振興会連合会との意見交換会
平成28年9月20日～10月3日	地域審議会との意見交換会（8地域毎）
平成28年10月14日～10月28日	市民との意見交換会（8地域毎）
平成28年11月2日 議員懇談会	意見交換会での主な意見を報告
平成29年1月20日 庁舎再編説明会	再任・新任議員を対象とした説明会
平成29年1月25日 議員懇談会	庁舎、駐車場面積の精査及び基金活用計画等の説明
平成29年3月22日, 29日	市自治振興会連合会理事会及び勉強会において、市民との意見交換会の内容報告

### 2. 市民からの「既存庁舎活用案」と「新築庁舎整備案」への明確な賛否

人口が減っていく中で、新庁舎を建てる必要はない。

現在ある施設を使えば良い。

一番ライフサイクルコストの安い福光庁舎活用案が良い。

コスト面だけではなく、総合的に考えると新築庁舎整備案が良い。

お金があれば新築庁舎整備案が良い。

中途半端にお金を使って増築するのは反対。

### 3. 主な論点と視点の整理

論点① コスト面（財政面）

論点② まちづくり面

論点③ 防災面

視点・3つの  
再編方法

- ①既存庁舎活用
- ②新統合庁舎整備
- ③その他の統合

補助的視点① 位置

補助的視点② 規模

補助的視点③ 再編時期

## 4. 論点別のご意見と市の考え方

### 論点①コスト面(財政面)

#### 【ご意見】

- 将来の社会情勢や財政状況が予想しにくいいため、なるべくお金をかけずに、将来世代に負担を残すべきでない。
- 庁舎建設にお金をかけるより、福祉や子育てなど、今やるべき事業等にお金を使うべきである。市民の幸せは建物では得られない。



#### 【市の考え方】

- 厳しい財政状況の中、**初期投資を抑え、将来世代に負担を残さないことを最優先にしなければなりません。**
- **今優先すべきことは、将来にわたって必要な子育て環境や福祉の充実、人口減少対策や雇用対策等への投資です。**
- 初期投資を抑えられる既存庁舎活用案を、より実態に近くなるよう現実的に検討・精査した。**(庁舎機能再編の比較試算 資料2)**
- 市の財政状況の厳しさは、**今後の財政見通し**等から明らかなように、このままでは義務的経費・その他経費一般財源充当額がH33年には、歳入一般財源より多くなることが想定できます。
- 財政運営に弾力性を持たせてくれる基金については、今後の活用を計画的に運用することとしており、**庁舎の再編関係に使用できる財源は限定されています。**
- 庁舎は、事務機能が果たせる、できるだけ質素なもので十分です。

### 論点②まちづくり面

#### 【ご意見】

- 新統合庁舎ができることで市が発展する夢を持つことも必要であり、将来の子供たちにも自慢できるようにした方がよい。
- 商店街と連携して発展していくようにすれば良い。
- 庁舎はまちづくりの重要な位置づけであるので、「都市計画や道路網の整備」「将来の市のあり方やまちづくり」等を庁舎再編を検討していく上で考えていかなければならないことである。
- 金額だけで議論が進み、十分な議論がなされないまま、結論が出されることのないよう慎重に進めてほしい。



#### 【市の考え方】

- まちづくりはハードからソフトが重要な時代となっており、**庁舎がまちづくりの中核を担うものではない**と考えています。
- 庁舎に夢を持つのではなく、**市の事業や施策等で子供たちに将来への希望が持てる取組を行っていくことが大切です。**
- 新たに何も無いところに庁舎を建設する場合には、都市計画や道路整備等の検討が必要ですが、既存庁舎には既に都市計画や道路整備について、計画に基づき、適宜整備が進められています。
- 既存庁舎は各地域の中心部にあり、周辺環境や公共交通機関等の交通アクセスについても、ある程度は整備されている状況です。
- 必ずどこかの地域は分庁舎が無くなります。そこで大切なことは、**各々の地域の魅力や強みを活かし、「魅力と活力ある地域」「安心・安全な地域」等をどう創っていくかが重要です。**
- 分庁舎が無くなる地域は、五箇山地域のように施設の統合や複合化などによる、新たなまちづくりを考えていくことも必要です。

## 論点③防災面

### 【ご意見】

- ・ 断層帯や河川等の災害リスクを考えると、より安全な場所に庁舎を設けることが大切である。
- ・ 南砺市には断層帯が走っており、安全な場所を選ぶべき。



### 【市の考え方】

- ・ 庁舎だけが災害に強ければ良いのではなく、**地域全体での防災面の強化が必要**であり、水害等への対応強化が必要な地域は、対策を立て、計画的な実施が必要です。
- ・ 平成20年災を踏まえ、県では河川の計画的な工事を実施しています。
- ・ **南砺市洪水・土砂・地震災害ハザードマップ**には、南砺市を通る高清水断層帯と法林寺断層帯、洪水災害想定浸水地域が表示されています。これによると高清水断層帯が井波庁舎の近くを通っており、また、小矢部川の山田川合流部から下流域にかけて、洪水災害想定浸水深が大きく記載されています。これは、日雨量225.3mm降雨があり、川が氾濫した場合の浸水範囲を想定しています。
- ・ これらのことから、**全ての既存庁舎の位置が必ずしもリスクが高い場所とは言えません。**

## 5. 視点:3つの再編方法の整理

### 【ご意見】

#### ①既存庁舎活用

- ・ 人口が減少していく状況の中、あえて新庁舎を建てる必要はなく、なるべく庁舎にかかるコストを抑さえた既存庁舎活用案が良い。
- ・ 市民が庁舎に行く用事はほとんど無く、庁舎にかかるコストをなるべく抑えるべき。
- ・ 一般の人は行政センターが残っていれば特に問題はなく、庁舎がどこに建っていようがそんなに不便は感じないので、コストが安い既存庁舎活用案が良い。
- ・ 庁舎は、職員の仕事さえできれば良く、通常の業務に支障が無い程度の質素な建物で良い。

#### ②新統合庁舎整備

- ・ コスト面だけで考えるべきではない。総合的に考えると新統合庁舎整備案が良い。
- ・ 既存庁舎活用案の場合、旧町の綱引きが発生してしまう。禍根を残すぐらいなら新統合庁舎整備が良い。
- ・ 土地の確保や災害リスクの少ない安全性の確保、市内どこからでもアクセスしやすい、人口重心等を考慮した場所の検討が可能である。

#### ③その他の統合

- ・ 2庁舎体制とすることで、増築や新築等の初期投資を抑制することができる。
- ・ 耐用年数まで現庁舎を利用し、最終的に耐用年数が一番長い福光庁舎に集約することが良いのではないかと。
- ・ 新築、増築せず、将来的に学校統合等により空いた施設を活用してはどうか。

## 【利点と課題】

### ①既存庁舎活用

#### 【利点】

- ・まだ使える施設を活用することで、コストを抑えることができる。
- ・将来の人口減少を見据えた整備が可能なことから、初期に無駄な投資を抑制できる。

#### 【課題】

- ・既存の施設を使用するため、場所や使いやすさ等、様々な面での制約が多い。

### ②新統合庁舎整備

#### 【利点】

- ・場所等の地域バランスや規模、配置等を検討することが可能である。
- ・様々な制約が少なく検討できる。

#### 【課題】

- ・初期投資が大きくなる。
- ・現在の職員数で建設するため、将来の人口減少による職員減少に対応できず、将来的に不用スペースが残る。

### ③その他の統合（複数庁舎活用、その他の公共施設活用等）

#### 【利点】

- ・初期投資費用を更に抑えることができる。

#### 【課題】

- ・施設維持管理経費が統合庁舎より多くかかる。
- ・複数の庁舎を活用する場合、いずれどちらかの庁舎の耐用年数が到来することで、再び庁舎再編の検討が必要となる。（早くて7年～10年後より）また、長い期間分庁舎方式が続くこととなる。
- ・行政事務の効率化や災害対策拠点としての危機管理体制の強化等の点では不十分となる。

## 補助的視点①位置

### 【ご意見】

- ・市内のどこからでもアクセスし易い位置に設けることが望ましい。
- ・人口重心を考慮して、位置を検討すれば不公平感を無くすことができる。
- ・将来的な人口増や発展が見込め、将来の合併等を考慮して、福野地域が良い。
- ・どこが一番便利か考えてほしい。
- ・公共交通との連携等、利便性を考えてほしい。
- ・将来の合併を考えると呉西の中心に位置する福野が良い。



### 【市の考え方】

- ・H27年度に実施した「公共サービスに関する市民アンケート調査」にもあるように毎月1回以上庁舎を利用する方は、9.6%と少なくなっており、市民の方は、ほとんど庁舎を利用する機会がなく、証明書の発行や申請の受付等の業務を担う**行政センターの窓口機能が8地域に残れば十分**と言えます。このことで、行政サービスの機能低下とはなりません。
- ・したがって、庁舎の位置での不便さといった点では、一般の方には影響が少ないと考えています。
- ・既存庁舎の場所は、全て公共バス路線に組み込まれており主要な道路に接しているため、公共交通の連携や利便性といったことでは、ある程度整備がされています。
- ・合併については、現在全く想定しておらず、庁舎再編と合併は全く別として考えています。

## 補助的視点②規模

### 【ご意見】

- 総務省基準ではなく、南砺で暮らしません課のように、庁舎外にあった方が良い部署もあるので、なるべくコンパクトに絞った方が良い。
- 霞が関や県庁のように最低限の規模で考えるべきである。



### 【市の考え方】

- 総務省基準は、あくまでも比較するための試算であり、今後、基本設計や実施設計をしていく中で必要最小限で効率的な施設として必要な面積を算定していきたい。
  - 今回新たに、現実的に既存庁舎に職員が何人収容可能かといったことを、現在ある図面を基にシュミレーションを行いました。
- (庁舎機能再編の比較試算 資料2)**
- 南砺で暮らしません課のように庁舎外にあった方が良い部署については、そうすることで、なるべくコンパクトな施設を検討していきます。

## 補助的視点③再編時期

### 【ご意見】

- 現在のままでは庁舎の維持管理費が目に見えない大きな支出となっており、早いうちに統合した方が良い。
- 早く実行して、無駄を無くしてほしい。
- 公共施設再編計画と関連しており、いち早く取り組むべきである。
- どのような方向になったとしても、市民全員が納得する結論は得られない。いつまでに決めなければならないという期限は無いので、しっかり議論してほしい。
- H37年に福野庁舎が耐用年数を迎え時期を目標に、今後議論を深め、意見集約を図ってはどうか。
- 10年後、20年後のことは分からないので、耐用年数を迎えるものから順に廃止する成り行き統合でも良いのではないかと。



### 【市の考え方】

- 既存庁舎を存続した場合と統合庁舎にした場合とでは、維持管理費との差額が年間当たり5,800万円～7,500万円程度多くかかることから、なるべく早く無駄な経費の削減を図り、歳出の削減に努め、必要なところに財源を集中していきたい。
- 議論については、段階を踏まえてしっかり議論を重ね、方向性を出していきたい。
- 耐用年数を迎えるものから廃止にする成り行きでは、維持管理等の費用が多くかかるため、スピード感も重要です。
- 今、我々が必要とされる判断は、財政状況や公共施設再編の考え方から、**初期投資を抑えて、いかに将来へ負担を残さず、現状の課題を解決していくかだと考えています。**